

<第4264回>

目的地：金剛山南尾根（金剛山）

担当者：時本

実施日：2022年6月26日（日）

形式：ポッカ訓練パートI

費用：¥1,700.（難波発着・交通費（往570(南海電鉄) + 往480(南海バス) + 復650(南海電鉄)）

参加者：23名

天気：晴れ時々曇り

行程：

難波駅(7:35)＝(南海電鉄)⇒(8:04)河内長野駅[集合場所](8:15)＝(南海バス)⇒(8:41)金剛登山口[510m](8:58)－[千早本道]⇒(10:41)金剛山(社務所前手前)[約1,080m](10:56)⇒(11:30)ちはや園地[約1,020m・昼食](12:02)⇒(12:45)中葛城山(12:55)⇒(13:44)千早峠[784m](13:53)⇒(14:28)行者杉(14:46)⇒(15:34)西ノ行者[733m](15:46)⇒(17:06)紀見峠[300m]⇒(17:36)紀見峠駅[約220m・解散]＝(南海電鉄)⇒難波駅

感想：

6月初旬に左足（膝より下の部分）の肉離れを起こし、少しずつ快方に向かっているものの、段差の大きい段を上がる時や、速足で歩くとき等、足で地面を強く蹴る動作をした場合に左足の内部に痛みを感じていました。痛みを感じる時があるだけに長い距離を歩くとどの程度影響が出るかが気になり、軽い荷物しか担げないと考え、例会実施の4日前に山行計画担当宛に、現状をお伝えするとともに、ポッカ訓練のためリーダーが軽い荷物では不可なら担当を諦めるが、軽い荷物でも可能なら予定通り例会担当を務めたいと相談したところ、軽い荷物でも良いとのご意見をいただきましたので、予定通り例会担当を務めることになり、一安心しました。

例会当日、金剛山登山口に向かうバスのフロントガラスには水滴がつき始め、暫くしてワイパーも動き始めました。当日は雨は降らない天気予報だったため、小雨ですぐ止むかなと思っていただけ、涼しいコースの方が良いということで、車内では予定どおりタカハタ谷経由で登りましょうと話していましたが、登山口でバスから降りると、「どちらで行っても良い」という意見や、「足元が悪いので危ないからタカハタ谷は避けた方が良い」といった意見や、涼しいのでタカハタ谷にはこだわらないといった意見があり、安全策で千早本道を登ることとしました。

千早本道では、Mさんには急遽千早本道4合目～頂上社務所前間において、本体の先頭で皆さんを引っ張っていただいたことや、Yさんには千早本道を含む全行程の最初からほぼ終盤まで、列の最後で皆さんのフォローをしていただいたこと等、お世話になりありがとうございました。千早本道を登りきり、社務所前で休憩した後、葛城神社で集合写真を撮影しました。例会終了後、葛城神社での集合写真を当会のホームページの掲示板にアップしたのですが、葛城神社とか千早園地、中葛城山、行者杉といった場所では歴年の金剛山南尾根ポッカ訓練で写真を撮影する機会が多かったので、同じ場所で撮影した写真を何年分か続けて掲出しても面白いかなと思ったりしました。来年、実施してみたいと思います。

千早園地到着は11:30と昼食には少し早い時刻でしたが、朝が早いのでお腹が空いたといった意見や、ここを出発してしまうと他に日陰の場所がないといった意見が出て、千早園地で食事をしました。大屋根のある休憩所は到着直後は混んでいましたが、出発する人もいて、私たちのグループは2テーブルを使用できました。ただ、屋根のない場所を好まれ、外で食事をされた方もいらっしゃいました。金剛山南尾根のポッカ訓練は時期的に雨が降ることが多く、千早園地も曇天であることが多いのですが、今年は見事に晴れました。

久留野峠からは中葛城山に向かって標高差約60mのまとまった登りがあります。私には記憶がないのですが、長く金剛山南尾根のポッカ訓練に参加されている方からは、昔は階段の両サイドに登れる道が今ほど多くはついておらず、ひたすら階段を登る必要があったので今より大変だったとか。確か

に急な登りだけに階段しか選択肢がなければ大変と思います。久留野峠からの急登を登り切った中葛城山で小休止し、2回目の集合写真を撮影しました。

今年も中葛城山や千早峠の手前ではササユリがきれいに咲いていました。参加されていたどなたかが言われていたのですが、ササユリは天然林の近くで咲いているが人工林（植林したと思われる場所）付近では咲いていないと。そう言われてみればそんな感じがしました。どこでもそうなのかといったことは分かりませんが、もしそのとおりだとしても、その理由は分かりませんが。

中葛城山～千早峠は比較的アップダウンが少なく、全体としては下りながら進む歩きやすい区間です。地形的な特性のため、登山道の遠くまで見通せる場所が所々にあり、ポッカ訓練のように参加される方が多い場合は、できるだけ多くの人を写せるための撮影適地となります。

千早峠から行者杉に向かうあたりでは、金剛山登山口出発後、長時間歩いているため疲労が蓄積してくると、まだまだ先は長いという思いがあって、皆さん無口になりがちでした。ただ、黙々と歩いても着実に行程は進んでいき、金剛山南尾根ポッカ訓練の中盤と終盤の境界点ともいえる行者杉に到着しました。コロナ禍の影響で今まで例会中のお茶会が規制されてきましたが、6月5日の臨時総会で緩和されたことを受け、Yさんからメロンを差し入れていただきました。それも2個。皆さん、大喜びです。Yさん、重いのにお疲れさまでした。これで行者杉でのデザートタイムが復活しました。また、少し遡りますが、中葛城山でSさんから冷たいスイカを差し入れていただきました。皆さん、生き返ったと言って喜んでおられました。お二人とも、ありがとうございました。

行者杉を出発すると皆さんから話し声が聞こえてきました。メロン効果は偉大です。今までの閉塞感がどこかに去り満ち足りた気分になられたのでしょうか。そのまま何事もなく歩けばそのまま紀見峠駅に到着、となったのですが、西の行者を通過後、天見駅方面に向かうブンダ谷への分岐を過ぎて暫く歩いていると右手の林の中から突然「今、何時頃？」と問いかけがありました。人がいると思わなかったのが驚きましたが、見ると徘徊老人のような人がいて、何をしているかわからない動作をしていました。時刻は16:00頃で、このまま放置してはこの人が危険になるかも知れないと思い、警察署に通報しました。その結果、警察署からは誰かがその人として欲しいと言われ、その人が動き出してからは一緒に行動して紀見峠駅まで誘導して欲しいと言われました。このままでは皆さんの帰宅が遅くなると思ったため、山行計画担当のMさんに、千早本道の際と同様に、皆さんを引率して先に紀見峠駅に行っていただくよう依頼しましたが、その場の空気を読まれたのか、そのまま動かせませんでした。結局、この人は地元に住んでいて土地勘があるようで、途中から階段が嫌だから池の方に行くと言って、ダイトレの左側の、道ではないところを下りていきました。その後、山の神のすぐ先のコンクリートで固めた広場の少し手前の道に、この人のものと思われる、中にゴミ袋らしきものがたくさん入った軽自動車が置いてあるのを見つけたので、そのことを警察に通報し、更に進んだ紀見峠付近で、この人を探しに来た軽自動車のパトカーに乗った2人の警官と出会い、今までの状況を説明しました。いろいろなことが重なって、紀見峠駅への到着は何もしなかった場合に比べ多分30分以上遅れたと思います。結果だけから考えると、この人は土地勘があり、迷わず自宅に帰ったと思われるので、参加していただいた方の帰宅を遅らせ、警察を煩わせただけになってしまったという気がします。一方で、そのまま放置したら無責任な気もして難しい選択でした。ただ、改めて述べますと、参加していただいた方には余計な時間をおとりいただいて申し訳なかったと思います。

当日は、朝の雨はなんだったのかと思わせるほど天気良かったのですが、涼しく、ときおり吹く風に心地よさを感じました。天気予報では暑い日といわれていたのに、予想外の涼しさで歩きやすいと、皆さん言われていました。個人的には肉離れの影響が顕著には表れず最後まで歩くことができて良かったと思います。参加していただきました皆さんには、初夏を過ぎた暑さが始まる時期、ロングコースのポッカ訓練に参加していただきましてありがとうございました。今回のポッカ訓練が、夏山やそれに続く秋山に行かれる際の体力づくりに役立ては幸いです。皆さんが良い山行をされることを願っています。